

ビワキジラミ にご注意！

ビワの「すす病」は加害のサイン

四国東部を中心とする地域のビワに新害虫 **ビワキジラミ** が発生し、発生域が急速に拡大しています。



写真提供：農食事業29022Cコンソーシアム

果実に発生した黒い「すす病」の被害



写真提供：農食事業29022Cコンソーシアム

果実の基部に付着した白い蠟（矢印の先）



写真提供：農食事業29022Cコンソーシアム

尾部から白い蠟を出すビワキジラミの幼虫



写真提供：農食事業29022Cコンソーシアム

ビワキジラミの成虫

【被害のようすと発見のポイント】

- ビワキジラミの被害は4～6月に多く見られます。幼虫はベタベタした甘露と、白い綿のような蠟（ろう）を排出します。
- 甘露に黒カビが繁殖して「すす病」となり、果実や枝葉が著しく汚れます。
- 幼虫は果実の基部や、芽・枝葉の基部のすき間などに隠れています。成虫は全長3mm前後で、黄褐色のセミに似た外観をしています。成虫はおもに葉裏の主脈沿いなどに寄生しています。
- ビワに**白い蠟をともなう「すす病」**や本虫が見られたら、お近くの病害虫防除所など（連絡先は裏面）にご連絡ください。

ビワキジラミに適用のある登録農薬

商品名	濃度	使用方法	使用時期	使用回数
スカウトフロアブル	2,000倍	散布	収穫3日前まで	3回以内
スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	散布	収穫前日まで	あわせて2回以内
オールスタースプレー	原液	散布	収穫前日まで	

【防除に関する留意点】

- 春の果実袋かけ前に、展着剤（商品名「まくぴか」など）を加用したスタークル／アルバリン顆粒水溶剤を必ず散布しましょう。
- 秋の花房上でも幼虫が増加するので、この時期にモスピラン顆粒水溶剤2,000～4,000倍（アブラムシ類対象、3回以内）及びサンマイル水和剤3,000倍（ビワサビダニ対象、2回以内）にそれぞれ展着剤を加用して散布すると、ビワキジラミの発生量を抑えることができます。
- 花房内部、枝葉のすき間や樹皮下などに隠れている幼虫にも薬剤が確実に付着するよう、丁寧な散布を心がけましょう。

ビワキジラミと被害についての情報はこちらをご覧ください。

- 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）
2013年度普及成果情報
http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/fruit/2013/13_045.html
- 徳島県病害虫防除所 平成24年度農作物病害虫発生予察特殊報第1号
http://www.pref.tokushima.jp/_files/00340076/2012tokushuhou001.pdf
- 香川県農業試験場病害虫防除所 平成28年度病害虫発生予察特殊報第2号
<http://www.jppn.ne.jp/kagawa/toksyu/h28/h28tokusyu02.pdf>
- 兵庫県病害虫防除所 平成29年度病害虫発生予察特殊報第1号
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/29tokusyu1.pdf>

連絡先（都道府県の病害虫防除所など）

- 長崎県病害虫防除所
長崎県諫早市小船越町3170 TEL 0957-26-0027
- 長崎県農林技術開発センター果樹・茶研究部門
長崎県大村市鬼橋町1370 TEL 0957-55-8740

本資料中の分布や農薬に関する情報は2018年2月時点のものです。資料の作成に当たっては、平成29年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業の成果を活用しています。